所長の部屋

今さら聞けない病気の常識　：　⑬ 水頭症

京都府南丹保健所長　時田　和彦

以前に、ヒトの頭の構造は、タッパー容器に水を入れ、その中に豆腐を入れて保存する状況に似ていると書きました。タッパーを頭蓋骨に、水を脳脊髄液（または髄液）に、豆腐を脳に置き換えて考えてください。ここで髄液に関して、もう少し詳しく書きます。

人の脳の中には、髄液が溜まった空間（＝脳室）があります。脳室で髄液が作られ、髄液は細い道を通って脳表面に流れ、頭蓋骨の近くから血管内に吸収されます。ここで、①髄液の作られる量が増える、②髄液の通り道が詰まる、③髄液の吸収量が減る、のいずれかが起こると、髄液が過量となります。これが水頭症です。

小児期に水頭症が起こると、過量の髄液により頭蓋骨まで大きくなってしまい、福助人形のようになります。成人で起こると、頭蓋骨は大きくならず脳室が大きくなり、脳実質を圧迫します。

成人の水頭症は、頭部外傷、くも膜下出血や髄膜炎の後に起こることもありますが、原因不明で徐々に発症することもあり、これを特発性正常圧水頭症と呼びます。症状は、歩行障害、認知症様の症状、尿失禁などです。しばしば認知症と間違われることがありますが、この水頭症は早期の手術により元通りに治ります。

前回お話しした硬膜下血腫と同様、いわば「治る認知症」として、記憶しておいて欲しい疾患です。